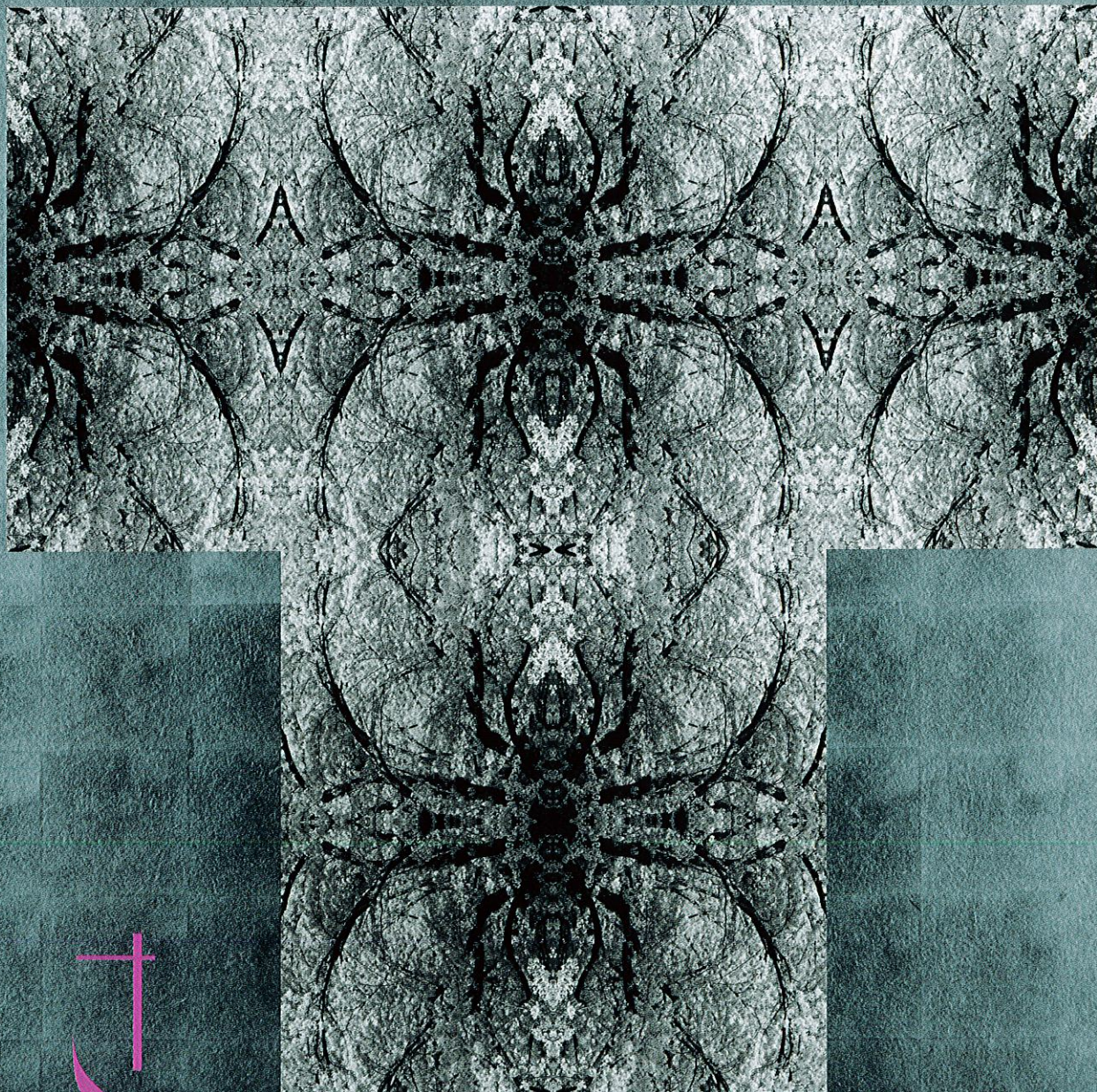


TADAYUKI NAITOH PHOTO EXHIBITION

SAKURA



T字型十二面シールド (W1145×H1195mm)

内藤忠行写真展

2016/4/18 MON ~ 5/31 TUE

開館時間9:00~17:00(入館は16:30まで)会期中無休

〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4
TEL.0187-54-3888

仙北市立 角館町平福記念美術館

内藤忠行写真展 — さくら —

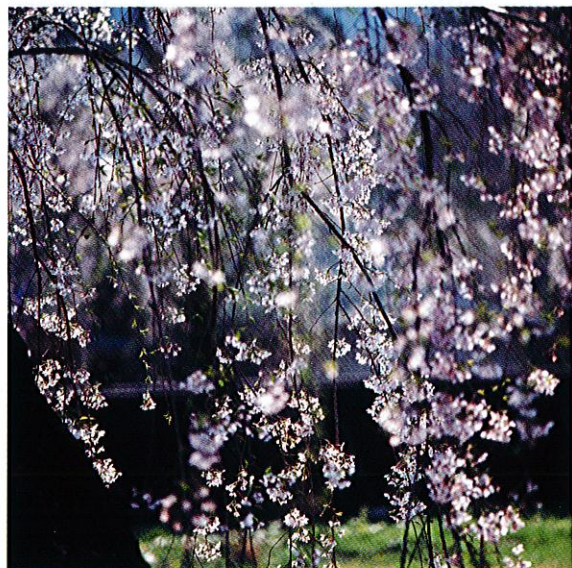
展示作品介绍(一部)



(W700×H700mm)



(W900×H900mm)



(W295×H295mm)

内藤忠行写真展オープニングセレモニー&ギャラリートーク

●オープニングセレモニー

2016年4月18日(月) 午前9時 美術館内ふれあいサロン

●ギャラリートーク

2016年4月18日(月) セレモニー終了後 展示室内
(企画展示室・ふれあいギャラリー)

会期 2016年4月18日(月)～5月31日(火) ※会期中無休

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 入館料 一般(高校生以上)300円 小人(中学生以下)200円 ※仙北市民は無料

内藤忠行と桜

内藤忠行の桜は、まるで「異界」への入り口のような。日本人は桜の花を、いつの頃からか、やまと心のあらわれとして見てきたが、ぱっと咲いて、はらはらと舞い散るあの儚さの奥に、内藤はものごとの根源的世界をのぞき見る。

内藤の桜は、かつて横に広がり、すっと立った「きもの」の様に身に纏い、箔の広がる宙に静止する。しかし、T字形に切り貫かれた窓から見える、万華鏡のように展開する異形の風景に戦慄する私たちは、そこに日本人の死生観を見出してきた。

内藤はここ数年、6×6の正方形フォーマットで桜を撮り、モノクロとカラーのフィルムを重ねたシリーズをつくり続けている。おびただしいカットと編集作業の繰り返しから浮かび上がる桜の様は、もはや時空を超えたマレビトたちとの戯れのように、妖しくも美しい。悦楽と狂気が、まなざしとカタチが、日常と様式が、桜という層の内でも混じり合うのだ。

内藤忠行の、写真的審美とでも呼べる感覚は、優美であり、乱流的だ。さらに言えば、写真というフラットな表現にもかかわらず、画面は極めて「非等質的」で、ととろとろで感情が衝突する。私は内藤の桜の新作と向き合いながら、長谷川等伯の〈柳橋水車図屏風〉を想った。内藤忠行の写真の感情と仕立てを知るには、等伯のまなざしにまで還ってみる必要があるのではと想っている。

仲世古佳伸(アートディレクター)

仙北市立角館町平福記念美術館

〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4

交通のご案内

JR角館駅より車で5分。国道46号線沿い角館武道館後ろに駐車場があります。

※第1展示室では常設展「平福穂庵・百穂展」を開催 問い合わせ TEL.0187-54-3888

